

特集①) 首都圏新築分譲マンション＜角住戸＞の供給動向 P.1～12
～＜角住戸＞の実態と今後の可能性を探る～

～＜角住戸＞の分析(板状物件編)～

- 【1】- ①② ＜角住戸＞の平均面積・間取りの構成比 / 新規スタート年別
- ③ 『4LDK』(広さ・間数)を求めて他エリアから購入した事例
- ◇参考 供給開始年における＜角住戸＞の供給比率
- 【2】- ①② 首都圏全体/23区・23区以外別
- ＜角住戸＞と＜中住戸＞の比較分析 ～面積・坪単価・価格より～
- 【3】 長谷工アーベスト提携販売物件の
- お客様の声、住宅の購入理由からみた＜角住戸＞の評価

～立地条件が類似する物件比較: ＜角住戸＞の“商品傾向の差”は如何に～

- 【4】- ①② 立地条件が類似する先行物件比較にみる
- ＜角住戸＞と＜中住戸＞の差異分析

◆今後の＜角住戸＞の方向性を探る

- 【資料】 都県別・エリア別: ＜角住戸＞と＜中住戸＞の供給傾向(板状物件のみ)

特集②) 首都圏版: お客様意識調査 (2025年10月調査) P.1～14
～新政権発足・日経平均株価史上最高値の中、
購買マインドは如何に?～

- 【1】-①～⑤ 各種定点項目分析 / 本人年収別の傾向
- 【2】住宅ローン控除の制度変更による影響
- 【3】世帯単位でみた住宅購入の“実質負担感”の変化

TOPICS 住まい探しにおける「検討開始のタイミング」と「物件認知媒体」

- 【4】「住宅検討段階」と「情報収集開始のタイミング」について
- 【5】-①～② 物件を認知した媒体: 年代別/居住地×購入物件所在地別
- 【参考】街の紹介ページの工夫 『地元居住者以外にも街の魅力が伝わるコンテンツを充実』
- 【まとめ】

■■ 2025年10月: 特集レポートダイジェスト ■■

特集①) 首都圏新築分譲マンション: ＜角住戸＞の供給動向
～＜角住戸＞の実態と今後の可能性を探る～

首都圏の新築マンション価格は上昇傾向が続き、高値水準を維持している。そうした中、商品(専有面積)をみると、中住戸はgross価格を意識した面積設定が継続する一方で、角住戸では90㎡超、中には100㎡を超える広めの面積プランを採用する物件もみられ、従来とは＜角住戸＞の考え方が変化している可能性が考えられる。

本レポートでは、こうした動きを踏まえて、＜角住戸＞に焦点をあて、面積・間取りの構成比や＜角住戸＞と＜中住戸＞の商品傾向の差(面積・坪単価・価格)を分析し、＜角住戸＞の実態と今後の可能性を考えました。

特集②) 首都圏版: お客様意識調査 (2025年10月調査)
～新政権発足・日経平均株価史上最高値の中、
購買マインドは如何に?～

自民党と日本維新の会の連立協議後の実施となった10月調査では、【景気動向】が大幅に改善。【金利】や【マンション価格】の先高感、引き続き高水準を維持、「住宅の買い時感」は堅調な水準を維持する結果となった。本レポートでは、本人年収層別に分析し、今後の見通し等について確認。

その他、＜TOPICS＞として、以下項目を確認しました。

- ・住宅ローン控除の制度変更による影響
- ・世帯単位でみた住宅購入の“実質負担感”の変化
- ・住まい探しにおける「検討開始のタイミング」と「物件認知媒体」 など